

社会政策学会 Newsletter No. 4 (通号No.21) 1999.6.30

代表幹事 伊藤セツ 〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7 昭和女子大学女性文化研究所気付
TEL:03-3411-5479 FAX: 03-3487-6850 E-mail: jo-2100@swu.ac.jp
URL <http://isr.org/nk/gakkaihp/htm>

主な目次

- ・第 98 回大会、総会の終了
- ・第 5 回社会政策学会賞の選考経過と結果報告
- ・次期役員選挙について
- ・学会誌編集委員会・学会改革ワーキンググループ 報告
- ・第 8 ~ 11 回幹事会記録・新入会員の紹介
- ・選挙管理委員会より
- ・World Planning への一部事務委託
- ・第 99 回大会の予告・その他お知らせ

社会政策学会第 98 回大会・総会の終了

代表幹事 伊藤セツ

1999 年 5 月 29 日 ~ 30 日、慶應義塾大学経済学部（責任者：小松隆二会員）で第 98 回大会が開催されました。今回も恒例どおりプログラムは開催工校から発送されましたが、報告要旨は予算上の関係で全会員への事前郵送配布は取りやめ、ホームページに掲載し、かつ報告関係者にもお送りし、当日参加者には配布しました。ホームページにアクセスできずに要旨集を必要とする会員は、若干の残部がありますので送料自己負担(200 円切手を貼り郵送先を記した A 4 版の冊子が入る返信用封筒同封)で手できます。本部にお申し出下さい。

当日は、会員約 300 名、非会員約 60 名、合計約 360 名が参加して共通論題「社会政策における国家と地域」の討議を行いました。テーマ設定分科会、自由論題がそれぞれ 5 つの会場に別れ、多くの参加者を集めて盛会でした。報告者、分科会名等はニューズレター No. 20 に掲載済みです。

総会は、初日の 5 月 29 日 16 時 40 分 ~ 17 時 50 分まで、約 160 名の参加で次のように開催されました。

議長 上井喜彦会員

場所 慶應義塾大学三田キャンパス西校舎 518 ホール

議題

- 1、活動報告（代表幹事）経済学会連合会報告（玉井幹事）学会誌の編集関係（黒田編集委員長）
- 2、決算報告（森幹事）会計監査報告（島崎会計監査）
- 3、99 年度活動計画（代表幹事）選挙管理委員会の発足と選挙の実施（遠藤幹事）学会誌の編集の継続した改革と発行の時期の変更（黒田編集委員長）
- 4、99 年度予算（案）（森幹事）
- 5、「会費規程」の一部削除（代表幹事）

上記 2、4、については、本ニューズレターの最後のページに掲載しています。99 年度予算は、懸案だった学会事務の一部外部委託を含む内容でした。5、「会費規程」の一部削除は、同規程の第 3 条「前条にかかわらず、春の大会終了後の入会者については初年度会費を 6,000 円とする。大学院生で、春の大会終了後に入会した者の初年度会費は 5,000 円とする」を削除するという提案でした。以上はすべて承認されました。

続いて、学会賞選考結果報告（戸塚秀夫選考委員長：後継）及び表彰と、名誉会員の推挙が行われました。

名誉会員の推挙

昨年秋の 97 回大会で改正された会則第 10 条によれば、会員歴 30 年以上で年齢 75 歳以上の社会政策研究に貢献した研究者であれば、名誉会員は現学会員に限らないことが明記されています。今年度はこの改正条項を生かし、社会政策研究および社会政策学会に多大の貢献をされた次の 3 氏を名誉会員に推挙し、記録に留めることに致しました。

黒川俊雄会員：1950 年入会。1986 年 ~ 1987 年度の代表幹事。

西村裕通会員：1951 年入会。1955 年 ~ 1998 年 6 月まで幹事。地域部会を統括。

中鉢正美元会員：1951 年入会。1994 年以降自然退会。1966 年 11 月 ~ 1968 年 10 月まで代表幹事。

開催校責任者の小松隆二会員から次のような大会報告がよせられています。ご尽力に対し心からお礼申し上げます。

第 98 回大会の開催校報告

慶應義塾大学 小松 隆二

社会政策学会第 98 回大会は、5 月 29 日、30 日、慶應義塾大学三田キャンパスにおいて開催されました。お蔭様で天候も大きく崩れることなく、また特に大きな問題もなく、無事に終えることができました。改めて幹事の先生方はじめ、会員の皆様の御協力に心より御礼申し上げます。

出席の申込みをされた会員は 329 名。そのうち実際に参加された会員は 241 名、申込なしで参加された会員は 58 名、合計 299 名の会員が参加されました。特筆すべきことは、他に非会員の参加が 61 名の多数にのぼったことです。あわせて全体では 360 名の参加となりました。

分科会には、参加人数に関しては介護保険関係の部会に出席者が多かったように、ややバラツキがみられましたが、どの会場にも比較的満遍なく多数の参加がみられました。

懇親会には、当初申込 147 名に対して、当日の取り消しが 20 名でしたが、逆に当日参加者も同数となり、最終参加者は申込み数と同じ 147 名の参加となりました。懇親会では、乾杯を竹中恵美子会員に、他に伊藤セツ代表幹事、西村裕通名誉会員、奨励賞受賞の二本、富田両会員、さらに次期開催校の鹿児島大学坂脇昭吉会員に御挨拶を頂戴しました。

いろいろ不行届きな点、御不快を与えた点もあったかと思いますが、御寛恕のほどお願い申し上げます。何とか次の鹿児島大学につなぐ役割をはたすことができたと致しております。改めて第 98 回大会が無事に終了しましたことに、参加会員の皆様に厚く感謝の気持ちを表させていただきます。

第5回社会政策学会賞選考経過報告

選考委員長 戸塚秀夫

選考経過

第一回選考委員会（三月一五日開催）では、「社会政策学会会員業績一覧」を参照しながら、昨年同様、相対的に若い研究者の作品に注目すること、各選考委員が次回には各二、三点の作品を挙げて議論のテーブルにのせること、学会幹事各位からも推薦をお願いすること、を決めた。その結果、第二回選考委員会（四月七日開催）では、計11点の作品が紹介されたが、その中から授賞候補作品として4点が選ばれ、そのすべてを次回の選考委員会までに全員が吟味してくることを決めた。

第三回選考委員会（五月一九日開催）では、はじめに「社会政策学会賞表彰規程」を参照しながら、「学術賞」「奨励賞」の性格について議論し、「学術賞」は、その研究分野におけるマイル・ストーンとして、研究史上長く記念されるべき作品に授与すること、「奨励賞」は、今日求められる新たなテーマに着実に挑戦したもので、その仕事をさらに発展させることによって学界の研究水準を高めると期待される作品に授与すること、という点について合意した。そのうえで、四候補作品について忌憚のない討論を行った結果、次の結論に達した。

授賞作品

学術賞 該当作品なし

奨励賞 二木立

『保健・医療・福祉複合体
全国調査と将来予測』
(医学書院)

富田義典

『ME革新と日本の労働システム』
(批評社)

二木氏の作品は、近年の行政によって強調されている「保健・医療・福祉の連繫と統合」が、実は、保健・医療・福祉サービスをワンセットで提供する「複合体」として展開していることに注目し、その全体像を精力的な悉皆調査によって明らかにしようとしたものである。この作品によって、私たちは、二一世紀のこの分野での供給システムを正確に予測するための基礎的なデータを提供されたことになる。二木氏自身が認めているように、主に施設面に焦点をあわせ、ソフト面についての調査が未完であるという限界があるにせよ、この作業の意義は大きい。今後、「複合体」の形成の論理、「複合体」にはらまれる「光と影」などについて、一層の理論的、実証的研究が進められることを期待し、全員一致で授賞作品とすることを決定した。

富田氏の作品は、日本の製造業におけるME技術革新が職場における「労働システム」に如何なる影響を与えているか、という観点で、機械加工業、自動車部品工業、巨大自動車工場、IC工場、化学工場の職場の実態を主

に丹念な事例調査法によって明らかにしようとしたものである。この分野での従来の研究で軽視されてきた諸側面、諸要因に注目しようとしているため、観察は複雑、多岐にわたり、かなり難解な作品であるが、技術的諸要因に立入りながら、生産と労働のシステムの実態に多面的な光をあてたこの仕事は、今後のこの分野での研究の進展に寄与するものと思われる。委員会としては、これらの仕事を日本資本主義の現段階のなかで如何に位置づけるか、という観点での理論的検討が深まることを期待し、全員一致で授賞作品とすることを決定した。

選外候補作品

松溪憲雄『イギリスの医療保障』(光生館)

久本憲夫『企業内労使関係と人材形成』(有斐閣)

松溪氏の作品は、イギリスの医療保障制度の特徴とされるナショナル・ヘルス・サービスの歴史の変遷を簡潔にあとづけようとした好著であり、とりわけナショナル・ヘルス・サービスの展開と私的診療の関係などについての考察は示唆にとむものと評価されたが、やや古い時点で執筆された論文がそのまま収録されていること、最近までにいたる歴史を総括するためには、松溪氏自身も認めているように、なお相当の作業が必要であることなどを考慮して、選外とすることにした。

久本氏の作品は、平常時における企業内労使関係において、異動のフレキシビリティに代表される「柔軟性」が如何に確保されているか、その実態を明らかにしようとしたものである。「相互信頼的労使関係」が従業員の「社員化」のプロセスで成立していること、対経営での規制力が弱いとされている日本の企業別組合が、その社員化プロセスに一定の役割を果たしただけでなく、組合員の意見を集約し経営に反映させるうえで着実な活動をしていることなどを指摘し、「相互信頼的労使関係」が今日なお維持されていると主張する論争誘発的な魅力をもつ作品として注目されたが、概念規定、理論展開における若干の曖昧さ、実態調査の精度についての不安などが指摘されたため、選外とすることにした。

以上が本審査委員会の選考の経過および結果であるが、最後に、終始この委員会を傍聴し、記録の作成、文献の調達などの労をとって下さった伊藤代表幹事に謝意を表したい。

1999年5月24日

1998年度社会政策学会賞選考委員会

委員長 戸塚 秀夫

委員 大塚 忠

坂口 正之

西岡 幸泰

西成田 豊

以下総会報告の中から重要な内容を掲載します。

次期役員選挙について

担当幹事 遠藤公嗣

既報(学会ニュースレター通号 No.20)のとおり、「幹事の選出に関する規程」が、郵送投票選挙にふさわしく全面的に改正されました。郵送投票選挙と改正した主目的は、会員の学会参加を促進するためです。しかし、郵送投票選挙としたことに伴って、以下の2点も改正され、その利点もあります。それらを簡単に説明します。

1) 実際のところ、選挙の投票開始が9月頃となり、開票が秋の大会前日となりました。すなわち、これまでより約半年早まりました。

理由：選挙管理委員の集合旅費を計上する財政的余裕がないことを考慮すると、秋または春のどちらかの大会時しか、開票はできません。秋の大会時の開票は、春の大会時の開票に比べて、つぎの3つの利点があります。

あ) 次期の選出幹事(秋に選出)が次期の推薦幹事(春大会までに決定すれば可)を決めるのに、十分な考慮時間がとれます。これまでは、春大会で開票直後の懇親会中ないし懇親会后に決めため十分な考慮時間がなく、在外研究予定者を推薦幹事に決めたり、推薦幹事とすべき会員を忘れていたりすることがありました。

い) 秋の大会から春の大会までの期間を、現期と次期の幹事間での事実上の「引継期間」とすることが出来ます。会則第13条によって、次回選挙では幹事会の半数以上が新人幹事となり、その後の選挙では理論的には幹事会の1/3以上が新人幹事になる可能性があるため、「引継期間」が十分に必要です。

う) 会員の所属ブロック移動は4月に多いので、秋の選挙だと、それを選挙用名簿に反映させやすく、正確な選挙用名簿の作成が期待できます。春実施の前回選挙では、正確さに手抜きがありました。

2) こちらがもっと重要です。規程第7条「会員5名以上の連記による推挙文の作成と同封」の制度によって、次期代表幹事や学会誌編集長をはじめ、部会・地方部会の代表者など、学会の諸仕事を実質的積極的に担うことのできる幹事を、選出幹事で確保できる方途を大きく開きました。

理由：これまでの幹事選挙の最大の問題は、上記のような幹事を選出幹事で確保できる保証がなく、実際にも確保できなかったことでした。郵送投票選挙となると、この問題がさらに拡大するおそれがあります。そこで、規程第7条はこれを改善するために設けられました。したがって、それぞれの部会・地方部会などの構成会員は、会員間で相談の上、規程第7条を活用することを期待されています。なお規程第7条の趣旨は、選出幹事を名誉職としないためであることに、深くご留意下さい。

学会誌編集委員会報告

編集委員長 黒田兼一

[1998年度の活動報告]

1. 昨秋、岐阜経済大学で開催された臨時総会で、懸案の「社会政策学会年報」と「社会政策叢書」の統合が正式に決定された。新しい学会機関誌名は「社会政策学会誌」(Journal of Social Policy and Labour Studies)となる。なお編集委員会は、編集実務の実際を考慮して、旧年報編集委員会を第1編集委員会、旧叢書編集委員会を第2編集委員会として、分担して編集作業にあたることとなった。

2. 「社会政策叢書」は啓文社が編集・発行していたが、社の都合により継続が困難となり、代わりにミネルヴァ書房が引き受けてくれることとなった。したがって新しい学会誌は、奇数号を御茶の水書房が、偶数号をミネルヴァ書房が担当することになる。

3. 今回の改革によって、全会員に年2回の学会誌が郵送されることになる。その郵送費の節減のため学術刊行物の指定を申請していたが、このたびその認可がおりた。

4. 本来ならこの春には新しい学会誌の創刊号が発行されるはずであったが、両出版社との調整と打ち合わせ、装丁その他で編集業務が大幅に遅れてしまった。6月下旬には発行できるはずである。会員諸氏および執筆者には深くお詫びする。

[1999年度活動計画]

1. 学会の大会報告を中心に学会誌を編集するという基本方針は従来通りであるが、発行時期を可能な限り早めるよう努力する。目安として、奇数号は3月下旬、偶数号は9月下旬の発行とする。それぞれの号の執筆者に原稿締め切日りの厳守をお願いしたい。

2. 奇数号はレフリー制による投稿論文を掲載しているが、その投稿締切日は9月30日である。大会自由論題その他で報告された方はもちろん、会員諸氏の積極的な投稿を期待する。投稿規定などは、学会のホームページあるいは学会誌を参照されたい。

投稿先は 101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学経営学部
社会政策学会誌編集委員長 黒田兼一

なお来年度からは投稿論文の応募締め切日りは早める予定である。

3. 「年報」と「叢書」の統合の出発ということもあって、編集業務がまだ軌道に乗っていない。統一された学会誌の誌面充実のために、今年度は第1編集委員会と第2編集委員会との連絡・協力関係を強めていきたい。それとの関連で従来からの課題であったのは、両委員会の委員の改選期が統一されていないことであった。そこで今秋で任期切れとなっていた第2編集委員諸氏には半年延長していただき、来春に第1編集委員会と合わせて改選することになった。

学会改革ワーキンググループ報告 上井喜彦

既報のように（Newsletter No.20 参照）学会改革ワーキンググループは2000年に開催される第100回大会の企画（担当幹事：佐口、中川、高田）と学会全体の改革（担当幹事：上井、高田）に分けて検討を重ねてきたが、98回大会の前日（5月28日）に会合を開き、急がれる第100回大会の企画にかんして以下のように案を固め、同日開催された幹事会に提案した。

1. 共通論題

(1) テーマ

「自己決定と社会的共同性」（あるいは「市場とセイフティネット」）という大きなテーマにチャレンジする。副題として「20世紀の労働と福祉を振り返って」を付することも考えられる。ただし、タイトルそのものはなお検討を要する。

テーマ設定の理由： もともと「社会政策」論のテーマであり、しかも今、その原理的・歴史的再検討が鋭く迫られおり、現状分析の焦点となっている。

(2) 報告者

この数年、報告者数が増えてきたために、総括討論の時間が十分とれないという問題が出てきた。そこで報告者は、理論的検討、労働の側から、福祉の側から、という3分野から各1名、計3人程度とする。

(3) 日程

第100回大会の共通論題では、大会参加者が報告を十分消化し、活発な討論によって総括討論をやるものにした。そこで、一案として、1日目の午後で報告を終わり、2日目の午後に十分時間をとって総括討論を行うことを考える。

2. テーマ別分科会・自由論題

(1) テーマ別分科会の企画

2000年春の大会は、第100回大会という大きな区切りとなる大会である。また、共通論題のテーマはすべての部会に関わる重大テーマである。そこで、各部会においては、テーマ別分科会の討論内容が共通論題の総

括討論に反映できるようなテーマ別分科会を企画してもらいたい。それが不可能でも、それぞれ20世紀を総括するようなテーマに取り組んでもらいたい。場合によっては、既存の部会主催のものに加え、二つ程度共通論題の関連させたものを設定することも考えられる。

(2) テーマ別分科会・自由論題の日程

共通論題の日程を上記のように設定する場合は、それに連動して、テーマ別分科会と自由論題の日程を従来のそれから変更しなければならない。一案として、自由論題を1日目の午前、テーマ別分科会を2日目の午前にすることが考えられる。この場合、院生初め若手会員の自由な発表の場たるべき自由論題の参加者が少なくなることが予想される。しかし、少人数でも興味ある会員が参加し、インテンシブな討論が出来ることになれば、十分意味あるものとなろう。

上記のような企画案について、幹事会から次のような注文がついた。共通論題の内容は時宜に適ったものであるが、タイトルはもっとわかりよいものにすること、

こういう大きなテーマで、理解できないような報告では困る。会員の誰もが総括討論に参加する気になるような報告をできる候補者を早く決定すること。旧来の日程の組み方が良い。ワーキンググループの案では自由論題の参加者が少なくなる。参加者が少なすぎでは討論にならないだろう。それでは若手会員の報告の意欲を殺ぐことになる。

ワーキンググループではこのような意見を踏まえて再検討し、7月初旬には最終的な企画案を幹事会に提案したいと考えている。

なお、5月28日のワーキンググループの会合では学会全体の改革についても検討したが、まだ具体案は固まっていない。第99回大会時の総会、遅くとも第100回大会時の総会で提案できるように、検討を進める予定である。その検討内容については、簡単ではあるがNewsletter No.20 に記されているので、会員諸子からも意見を頂戴したい。

社会政策学会1998～2000 年 第8回～第11回 幹事会報告・新入会員の紹介

ニューズレターNo.20(1999.4.1)発行後、4回の幹事会が開催されています。大会・総会と前後しますが重複を避けて内容をお知らせします。

第8回 幹事会報告

日時：1999年4月10日（土）2時～5時

場所：昭和女子大学1号館第二会議室

出席：伊藤、岩田、埋橋、遠藤、上井、黒田、関口、高田、玉井、中原、中川、二村、三富、森

報告事項：

・黒田編集委員長より、学会誌の見本刷りが回覧され、体裁が変わったせいもあり、大会までには完成しないことが報告された

議事

1、入会の申請について：次の会員が承認された（氏名、所属、専門分野、推薦者）

亀野淳	株式会社エコニクス地域振興室	労働経済学、労務管理、地域雇用問題	伊藤セツ、森ます美
鈴木玲	大原社研	労働経済学、労使関係論、	早川征一郎、五十嵐仁
伊藤淑子	北海学園大学経済学部	医療福祉論、地域福祉論	荒又重雄、美馬孝人
横田伸子	山口大学経済学部	韓国の労働問題・労働史	公文薄、萩原進
我妻もえ子	英国ウォーリック大学院民族関係研究所	シチズンシップ理論、流出・入移民政策	林大樹、高田一夫
いしづか	一橋大学大学院社会学研究科博士課程		林大樹、高田一夫

- 2、第98回大会について：(1)プログラム(別紙：配布済み)(2)総会の持ち方については会計が主な議題となった。大会開催校の中川幹事より、準備状況の報告があった。プログラムを早急に印刷郵送することとなった。
- 3、98年度会計決算(森幹事)：支出の決算は済んでいる。会計監査にかける。
- 4、次年度活動計画と予算について(代表幹事、森幹事)：学会事務を専門家に委託することは合意が得られたのでそれに見合う予算を作り直す。そのため、今期から大会要旨集は全会員に郵送しない。参加者に配布し、希望者には郵送料自己負担の上郵送する。旅費支給は大会開催に関する非会員・学会賞選考委員のみを対象とする。大会参加費徴収を秋の臨時総会で検討したい。支出項目を用途分類に変え再編成することとなった。
- 5、名誉会員の推挙について(資料作成：高田幹事) 資料を参考にして、数名4月末日まで本部に推薦すべき会員について意見を出すこととした。
- 6、石畑・本間会員の提案について：玉井幹事も同様の意見を持っていた。しかし、名簿43ページの「了解事項」にあるように、手続きが、会員20名以上の署名等条件も多いのでその旨を考慮し、有志としての声名にしてはどうかとの意見が出た。代表幹事がそれを伝えるが、それ意向の進め方は玉井・岩田幹事に一任する。
- 7、学会事務の一部外部委託について具体的に検討する。3社の見積りや、業務内容が集められているが、それらの交渉等は、事務局(伊藤代表幹事、森幹事)に一任された。
- 8、秋の大会で臨時総会を開き、2000年4月以降の予算を決める。

第9回幹事会記録

日時：1999年5月28日(金)2時～5時

場所：慶應義塾大学

出席者：伊藤、岩田、埋橋、遠藤、上井、黒田、熊沢、坂脇、玉井、中原、中川、二村、浜岡、三富、森、島崎

《報告事項》

・会員数：945名

・玉井幹事から、石畑・本間会員から出されたホームレスアピールの件には玉井・岩田幹事が対応したが、「政府の対応が流動的であるので時期をみることとし、今回は見送ることとした」との報告があった。

・WGが5月28日に開催された旨上井幹事から報告があった(上掲)

・学会会議より、科研費学術審議会の件について文書がきている。

・18期学会会議への登録は5月28日付けで行った。

《審議事項》

1、会員の承認：回覧の結果次の17名が全員承認された。(氏名、所属、専門分野、推薦者)

久保文一	九州大学院博	経済地理	労働経済論	久野国夫・遠藤雄二
嵯峨嘉子	大阪府立大学院博	社会福祉		庄谷怜子、里見賢治
鬼丸朋子	九州大学院博	人事労務管理		久野国夫・遠藤雄二
八田和子	大阪府立大院博	社会福祉		里見賢治・武田宏
根岸毅宏	國學院大学院博	アメリカ税制・社会保障制度・貧困問題		小越洋之助・橋本秀一
原伸子	法政大学経済学部	経済理論・経済学史		伊藤陽一・松崎義
竹内治彦	岐阜経済大学	産業社会学		木村隆之・斎藤悦子
西島文香	大阪府立大院博	社会保障・福祉財政		里見賢治・武田宏
新名正弥	都老人総合研	政治学		平岡公一・高田一夫
垣田裕介	大阪府立大院修	貧困問題・社会福祉		里見賢治・中山徹
中川千鶴子	津田塾院博	社会保障政策		遠藤公嗣・小野沢あかね
伊藤泰三	大阪府立大院修	貧困問題・社会福祉		里見賢治・中山徹
辻本千栄子	流通科学大学商学部	スペイン経済		岩井浩・吉田しおり
禿あや美	東京大学院博	労働問題		佐口和郎・小野塚知二
川原恵子	日本女子大院博	社会福祉・貧困問題		星野信也・岩田正美
久保木匡介	早稲田大学院博	行政学(現代行政改革)		首藤若菜・富永静枝

2、会費規程一部改正：第3条の削除が幹事会で承認され総会に提案されることとなった。

3、名誉会員：中鉢正美、西村裕通、黒川俊雄氏を代表幹事が推薦し幹事会で推挙された。

4、戸塚学会賞選考委員長から、学術賞に関する報告を受けた(別掲)。記念品は、昨年と同額分用意(品物は落款兼蔵書印とペンセット)。なお、戸塚委員長から辞任・交代の要望があり承認された。

5、会計予算案審議(別紙：森幹事提案)：学会事務の一部外部委託を含む予算が一部訂正の上了承された。

6、次期役員選挙について：遠藤幹事から提案があり了承された(別掲)。

7、国際交流にかんしては懸案事項として先送りされた。

第10回幹事会記録

日時：1999年5月29日(土)昼休み

場所：慶應義塾大学

出席者：相澤、荒又、石田、伊藤、岩田、埋橋、遠藤、上井、熊沢、下山、関口、高田、玉井、中原、中川、二村、浜岡、三富、森、島崎

- 1、日本学術会議関係：第18期候補者、選挙人を選ぶ選び方は秋の総会で決めることとなった。2000年2月15日まで会員候補、2月21日まで推薦人を出す。
- 2、新学会賞選考委員の推薦：幹事会としては、任期切れで交代の西岡委員に代わって社会保障・生活問題分野で荒又重雄幹事、戸塚委員に代わって労使関係分野で松崎義会員を推薦した。荒又幹事のは承は得たが、松崎会員は欠席で交渉できず、不承諾の場合は石田光男幹事を推薦することに決め、その旨石田幹事のは承を得た。
- 3、社会政策学会の次期(2000～2002年)役員〔幹事および会計監査〕選挙について：選挙管理委員を次の4名に委嘱した。北海道・東北ブロック：町井輝久、関東・甲信越ブロック：二村一夫、関西・東海ブロック：熊沢誠、九州・中国四国ブロック 中原弘二
- 4、第100回大会の会場と第101回大会、第102回大会会場と持ち方について
 第100回大会：代表幹事のを受けて遠藤幹事が明治大学の柳沢敏勝会員に打診し、正式の承諾を得た。開催日は2000年5月27日(土) 28日(日)である。
 第101回大会：予定通り1999年10月23日(土) 24日(日)鹿児島大学教育学部。
 第102回大会：幹事会後、関口幹事から工藤会員に打診し、中央大学経済学部で引き受けていただける予定である。

第11回幹事会記録

日時：1999年5月30日(日) 昼休み

場所：慶應義塾大学

出席者：相澤、伊藤、岩田、遠藤、大沢、上井、熊沢、坂脇、下山、関口、玉井、中原、中川、二村、三富、森、島崎

1、会員の承認(氏名、所属、専門分野、推薦者)

桐木陽子	松山東雲短期大学	労働社会学	川東英子	中川スミ
小澤 薫	中央大学院博	社会保障・社会政策	工藤恒夫	宮本 悟
片岡洋子	京都大学院	労働経済	今久保幸生	久本憲夫
浅川和幸	北大教育学部	労働社会学・教育社会学	清山卓郎	木村保茂
池田綾子	広島大学院博	労働組織論	野原光	藤田栄史
宮寺由佳	日本女子大学院博	社会福祉・貧困生活問題	岩田正美	田端光美
芦田麗子	種智院大学仏教学部	社会福祉	岩田恭子	木村敦

以上7名が承認された。

2、事務の一部外部委託

(株)ワールド・プランニングと契約を結ぶことが了承された。会費請求は初期作業終了後7月末となる。

選挙管理委員会からのお知らせ

選挙管理委員長 二村一夫

昨1998年10月24日、岐阜経済大学において開催された臨時総会で、郵送による役員選挙を行うことを内容とする会則改正が成立しました。これを受けて、本年5月29日の第10回幹事会は、社会政策学会の次期(2000～2002年)役員〔幹事および会計監査〕選挙を管理する選挙管理委員を、次の4名に委嘱しました。

北海道・東北ブロック	町井 輝久	関東・甲信越ブロック	二村 一夫
関西・東海ブロック	熊沢 誠	九州・中国四国ブロック	中原 弘二

選挙管理委員会は、委員の互選により二村一夫を選挙管理委員長に選出し、選挙日程等を次のように決定しました。

- 1) 選挙の開票は、1999年10月22日に鹿児島大学においておこなう。
- 2) 郵送による投票の締め切り日は1999年10月20日とし、選挙管理委員会(昭和女子大学女性文化研究所社会政策学会本部気付)宛必着とする。
- 3) 選挙の公示日は1999年9月20日とし、選挙管理委員会は直ちに投票用紙、有権者名簿等を全会員に発送する。
- 4) 「幹事の選出に関する規程」第7条による「推挙文」を有権者に配布することを望む会員は、1999年9月10日必着で、会員5人以上が署名した推挙文1部を、下記に郵送すること。

〒194-0298 東京都町田市相原町4342 法政大学大原社会問題研究所内

社会政策学会役員選挙管理委員長 二村一夫

これと同時に、推挙文のテキスト・ファイルを9月10日正午までにE-mail(アドレスはnk@oisr.orgまたはBXH00104@nifty.ne.jp)で選挙管理委員長に送付すること。

推挙文は署名者の氏名もふくめ、600字以内とすること。選挙管理委員会は提出されたすべての推挙文を統一形式で印刷し、全会員に配布する。

- 5) 今回の選挙において、会則第13条の「連続3期を限度とし、重任は妨げない」とする規定により被選挙権を有しない会員は以下の9人である(敬称略)。

相沢与一、荒又重雄、石田光男、伊藤セツ、大沢真理、熊沢誠、佐口和郎、高田一夫、二村一夫。

(株)World Planning への一部事務委託：会費請求は7月末までに行きます！

代表幹事 伊藤セツ

今回の総会で承認された予算(後掲)は、学会事務の一部外部委託を想定したものでした。本部事務局は今期、幹事の任務分担体制をとって運営してきましたが、会員が950人に及ぶに至って、名簿管理、名簿作成、会費請求事務、会費入金管理、ニューズレターの発送、春の大会報告者の公募、要旨集の作成、等に忙殺され、一部を外部委託する必要にせまられていました。

これまで、高田一夫幹事が名簿管理、名簿作成、会費入金管理を分担して下さっていましたが、高田幹事の任期中の長期外遊が決定するに至って、これに代わる体制をボランティア、アルバイトで整えることは不可能であるとの判断から、適当な事務委託先を具体的に検討してきました。数件の見積もりを取り寄せ、オフィスに出かけて実際の業務説明を受けたり、こちらの要望との折衝をはかった結果、株式会社ワールドプランニング(World Planning)(代表取締役 吉岡正行氏 東京都港区赤坂2-20-13 渡辺ビル4F)が第一候補に挙がり、第11回幹事会で承認されましたので、6月10日ワールドプランニングと契約を結びました。7月15日までに基礎作業を終え、7月中に、一部事務委託を知らせる代表幹事からの挨拶とともに会費の請求が会員に届くことになっております。懸案事項として入会申し込み用紙の多少の加筆(分野別の分類を自由記入でなく分類する等を含む)があります。会費の請求が行きましたら、指定の用紙で速やかに振り込んで下さいますようお願いいたします。封筒は従来と多少異なりますのでお間違いのないようお気を付け下さい。

一部事務委託といっても従来とそれほど代わるわけではありませんので、従来通りメール等は、本部にどうしお寄せ下さい。

第99回大会

すでにニューズレターNo.20で予告済みのとおり、鹿児島大学教育学部担当(責任者:坂脇昭吉会員)で、1999年10月23~24日に開催されます。報告者、書評分科会等準備は順調に進んでおります。詳細は、夏に開催校からプログラムが発送されますのでご注意下さい。

・慶應義塾大学からは、本部から送った大会費70万円の残金、63,296円が本部に返納されました。また、慶應義塾大学経済学部社会政策学会会員(代表小松隆二会員)から懇親会費の残額49,800円が本部に寄付されましたことお知らせします。

・学会賞選考委員として推薦された松崎義会員が辞退され、幹事会の決定どおり、石田光男氏にお願いすることになりました。

・はじめての郵送選挙が実施されます。他学会で御経験済みとは思いますが、選挙管理委員長二村一夫氏の指示に従って、多くの方が投票されますよう、選挙管理委員会、幹事会一同、会員の皆様に御願い申し上げます。

・次回幹事会の予定は10月22日(金曜日)午後、鹿児島大学においてです。入会申し込み希望者は随時受け付けますが、幹事会での審査・承認を経なければなりません。会員として推薦予定のある方は、この点をご了解下さい。

大会前の郵便物の処理、FAXの受信、ニューズレターの発行ならびに諸施設の利用で昭和女子大学(女性文化研究所・庶務課)にはいろいろお取りはからい頂きました。